

# 道岳連だより

広報 NO.74  
平成27年4月23日  
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

## 第29回道岳連交流登山会士別大会

6月13日-14日 残雪の天塩岳で開催

第29回目を迎える北海道山岳連盟交流登山会は、朝日山岳会が主管し「士別市合併10周年記念事業」として本年の6月13日（土）・14日（日）に天塩岳で開催される。

例年8月最終の土・日に実施されている交流登山会だが、残雪の豊富な6月の天塩岳を全道の仲間楽しんでもらおうと、地元の朝日山岳会が主管して開催する。

コースは、連絡道～新道コース、前天塩コース、旧道（沢）コースで、宿泊は岩尾内湖白樺キャンプ場。

一日目は13:00から受け付、15:00開会式、16:00交流会。二日目は7:00までにキャンプ場から登山口へ各自移動。

参加料は3,000円。5月15日（金）申し込み締め切り。問合せ・申込み先及び参加料の振込先等は「末尾掲載（16頁）」。



## 杉本 怜選手スポーツクライミングスペシャル

4月5日美唄市体育センターにて、杉本 怜選手を招いてクライミング研修会を開催いたしました。世界の頂点に立つクライマーの研修会は、参加者にとって非常に有意義な時間となり、杉本選手の生い立ちやコンペでの苦労話などを聞くことができました。

途中、実技を用いた時間では、体のケアに対する考え方やけがをせずクライミングすることなどを、わかりやすく説明していただきました。

40名以上の参加者のまなざしに杉本選手も力が入り、最後は予定の時間を大幅に過ぎての終了となりました。  
(琴似工業高校 佐藤 修一)



# 日本山岳協会平成26年度代表者会議報告

平成27年2月15日 日本青年館ホテル

## 神崎会長挨拶要約

①日山協構成員の大部分は登山愛好者が実情、それに対して事業が競技に偏り過ぎているのではないかとの疑義が各都道府県にある。

- ・定款にある日山協の3本の柱は、本来は登山と競技の2本柱である。「安全登山」「山の環境と文化」《登山分野》と「登山と山岳スポーツの普及と振興」《競技分野》

- ・予算配分は、日体協やtotoなどの目的事業費を除くとほぼ1:1の割合になっている。

公益法人の条件；目的事業費は全収入の50%以上 → 日山協はぎりぎりの51%

目的事業費；アンチドーピング委託事業、toto補助金、日体協補助金など

事業収入の77%は参加料・登録料などの競技収入

- ・「登山月報」の扱いなど競技偏重の印象は否めない

今後の課題；登山の新規事業をどう展開するか

②IFSC会長談…クライミング競技のオリンピック参入の可能性は50%程度ある

- ・日本の動きはIOCでは批判的

③山の日制定記念事業（新規事業）

- ・「山の日」フォーラム 3月28日（土）～29日（日） 東京国際フォーラム

各種講演・会議、上映イベント、出展イベント、特別協賛イベント

- ・「ふるさとの山に登ろう」…全国9ブロックに区分し具体案を募る。各ブロック単位の事業に予算192万円を計上して配分する

## 26年度事業経過報告

①今年から（公財）全国高等学校体育連盟登山専門部が加盟、48団体としてスタート

②気象庁「火山予知連絡会議火山情報に関する検討会」内閣府「火山防災対策推進ワーキンググループ」のメンバーになり、特に登山者の登山届の啓発・普及や火山情報の提供が喫緊の課題として問題提起された。

③山岳共済会の加入の伸び悩みについて（5万人で停滞）、外に向け山岳保険の告知・宣伝の展開 JROとの比較について近々報告…遭難捜索費330万円に集中加入

④個人会員制度導入都道府県…20

⑤競技運営資格…更新というのではなく毎回新規取得の形

## 都道府県連絡協会の報告

- ・一般登山者への働きかけ…県内百山を選定しグレーディング作成（山梨、富山）、登山に関するテキスト作成（三重）、サークル形成促進（兵庫）、登山学校開設（京都）、講習会のチラシ・ポスター行政に働きかけ、平均参加数110人（三重）、個人会員用スケジュール年50回（群馬）

- ・他団体との連携協力…日本山岳会・労山と自然保護で協力（福岡）、猟友会と鹿駆除で協力（高知）、トレイルランナーとパネルデスカッション（香川）

- ・ジュニア育成・その他…沢登り・クライミング親子体験促進（神奈川、広島）、独自のインストラクター育成（大阪）、山岳総合センターに指導員派遣（長野）、役員の定年制（東京）、団体会費の定額制（東京）、各山岳会に3年間の活性化計画を求める（栃木）、清掃登山に県知事参加（栃木）

- ・情報…大山縦走禁止、石鎚山にトイレ設置

## 全日本登山体育大会

10月9日（金）～11日（日） 宮城県栗駒山 地震災害見学コース（栗原・南三陸）含め6コース  
紅葉最盛期の宿の確保の関係で、先着220名限定募集 （報告者 理事長 神山 健）

# 山のトイレ問題で道内山岳団体が連携

大雪山十勝岳連峰美瑛富士避難小屋・野営指定地にはトイレが併設されておらず、周辺は糞便や使用済みティッシュが散乱する状況が続き、「山のトイレを考える会」が中心となり関係機関にトイレ設置の働きかけをすすめていた。しかし、設置後の維持管理や費用負担などをめぐり、膠着状態が続いていた中で、今年度環境省が「テント型携帯トイレブース」を試験的に設置することとなり、地元的美瑛町、各関係機関、山岳団体が協働して同山域の携帯トイレ使用の普及と施設の維持管理を図ることとなった。

協力山岳団体は、北海道山岳連盟、北海道勤労者山岳連盟、日本山岳会北海道支部、北海道ガイド協会、札幌山岳連盟、道央地区勤労者山岳連盟、道北地区勤労者山岳連盟、白老山岳会、山のトイレを考える会で、これらの団体が「管理連絡会」を構成し、夏山シーズン中に月2回程度の輪番制により「ブース」の点検・清掃をすることが3月の連絡会設立総会で決定した。

道岳連では、7月の常任理事会で連絡会参加を決定し、1月には連絡会設立準備会において提案された業務内容等を承認するとともに、主たる担当を自然保護委員会とすることが決まった。



携帯トイレブースが設置される美瑛富士避難小屋

## 行事・各委員会事業報告

### 平成26年度 第3回理事会 3/15 札幌市民ホール

平成26年度北海道山岳連盟第3回理事会は、札幌市民ホールで49名(委任状19)の理事が出席して開催された。議件として1号議案 平成26年度事業報告 2号議案 平成26年度会計(中間)報告 3号議案 平成27年度事業計画(案) 4号議案 平成27年度会計予算(案) 5号議案 各種議題 6号議案 その他 が提案された。

小野会長は冒頭のあいさつで、冬山スキー事故の多発、2016年からの山の日に対する道岳連の取組などに触れ、神山理事長は、日山協代表者会議について報告した(別掲)。

議案審議では、1号、2号議案は質疑を経て承認。3号議案の事業計画・予算は、行事・事業日程をHPに掲載、ほぼ前年並みの事業を組むことを各担当者が説明。質疑では、安全登山シンポジウムは道内各山岳団体持回りとしてはどうか。山の日制定記念事業の取組。自然保護指導員認定者が存在しない加



盟団体への対策。山岳指導員養成講習会・スポーツクライミング指導者養成講習会再開などについて参加理事から質問が出された。

4号議案では、個人会員制度細則の文言整理と年度途中入会者に対する会費の取り扱いについて説明があり、提案どおり承認。各委員会所管の備品管理規程、備品管理様式も承認された。

## 氷壁技術講習会 1/17-18 層雲峡温泉・銀河の滝

本年度の氷壁技術講習会が2015年1月17-18日の日程で層雲峡銀河の滝で行われ、講師2名と参加者12名の合計14名が参加しました。

17日は吹雪模様で集合が懸念されましたが、予定どおり参加者が集合。天気は相変わらずでしたが、12時より講習開始。この日は総勢13名、まるっきり初心者の方も参加しているので、アックスやアイゼンの打ち込み方など、基本的な技術のおさらいをした後、トップロープ3本を張り、順番を変えすべての所を登ってもらい15時頃終了。降雪が激しく、上部からの落雪が滝下部に集中して雪崩てきての実戦さながらの中の講習でした。

宿に戻り夕食後、基本的なアイスクライミングの机上講習を行いそのまま懇親会へ。夕方に富良野から駆けつけた1名が合流。

翌18日は日帰りで参加した1名と、負傷して帰宅した1名と参加者の入れ替わりはありましたが、総勢14名で銀河の滝に集合し講習開始。トップロープを昨日とずらした所に張り、順番に登る。さらに左側にロープを固定し、ユマーリングと中間支点がある場所での懸垂下降の練習もしてもらいました。

昨年の参加者や初めてのアイスクライミング体験者という構成で、人数が多かった割にはそれなりに登れたと思います。ある程度やっている方にはもっと登りたいと思ったところがあります。基本的な講習ということで納得してもらいました。また、指導員資格をお持ちの方にもお手伝いをいただき、非常に助かりました。有難うございました。(講師スタッフ 工藤、江崎)



## 冬山講習会 Part 1 1/17-18 旭スキーリンクス・神居山・音江山

今年度普及委員会事業の冬山講習会 Part1 は、カムイスキーリンクスと神居山・音江山で開催し、一般参加27名、スタッフ10名で実施した。

1日目はカムイスキーリンクス・ロッジに集合、9:30 開講式～10:30 スキー場・神居山で実習。小雪が舞う中、山スキー、テレマークスキー班は午前中スキー場で基本技術を確認しつつ滑降。午後は、スキー場不整地や神居山裏（北西斜面）でシール登攀、深雪滑降練習。スノーシュー班は、山頂付近からスキー場内の森林帯を読図、地形判断しながら下る。

16:00 に宿舎のネイバル深川に移動し室内で座学研修。①冬山装備と低体温症（加藤講師）②私とテレマークスキー（上野英孝特別講師）③「北海道の山スキー（道岳連）」と「テレマーク・ワールドカップ」上映 ④明日の音江山について

懇親会では、道岳連個人会員制度の紹介（神山理事長）と、3分自己紹介。これからの山計画、道岳連への期待などが語られ、盛り上がる。

2日目、受講者にとって冬山の実践はおおむね好評であった。山スキーの初心者パーティー（B2班スタッフ含む8名）を除き、29名が音江山の山頂に立てた。20センチ程の新雪ラッセル、雪質もなかなかのパウダーだ。雪崩地形を想定したピットチェックや読図を班ごとに行った。

山スキー、テレマークスキー技術は年を追うごとに高くなり、1時間半ほどでスタート地点まで下ってくる。スノーシュー班もあまり離れることなく下ってくる。

閉講式では受講者の声を聴く時間がなかったが、満足した様子が見て取れた。次回はさらに技術レベルに合わせた、きめ細やかな対応ができる講習会としよう。（普及委員長 秋元 篤男）



音江山山頂への道



ネイバル深川での参加者

#### 上野英孝テレマークスキー特別講師から

私にとっては久々の厳冬期における冬山でしたので、とても新鮮爽快なツアーとなりました。また、とてもユニークで前向きなテレマークの皆様に助けられ、非常に楽しい二日間となりました。ありがとうございました。

さて、皆様におかれましては、楽しむことを目的として行う「生涯スポーツとしての山スキー」ですが、日本ではあまり馴染みのない表現のようです。「生涯スポーツ」とは、自らの生活をより豊かに、そして楽しむことを目的としたスポーツを指し、ウォーキングや体操もその一つに分類されます。しかし、現実のスキーは「特別な道具を持ち、特別整備された環境で、時間がある人が行う特別なスポーツ」になっているのも事実です。目の前に雪や山があるにも関わらず、いつの日かスキーがどこか遠くの存在になってしまったのです。

北方圏におけるスキーの位置づけは「いつでも、どこでも、だれでも」楽しみ行うことができるスポーツでなければいけないと考えております。それは年齢や性別、地位や名誉等一切関係なく、すべての人が平等に楽しむことができるものであることが一番大切。皆様の実践と継続が多くの人に伝わり、そしてスキー王国北海道の実現に寄与することを願っております。

〈注；上野氏は数年前まで、競技会で世界を飛び回っていました〉

## 西谷 芳晴講師 … スキー班リーダー

今回の参加者のスキーレベルにはびっくりした。まず皆さんの装備が素晴らしい。板はファットでロッカー形状、金具は軽いT L T系か玄人好みのマーカー、靴は軽くて4バックル、そしてスキー技術は上級レベル。

こんな人たちが「なぜこの講習会に参加するのだろう」と私は思う。2日目の音江山での登りに苦勞する人はいたが、頂上からの激パウには全く問題なしにすいすい滑っている。しかし私は楽しかった。通常の講習会であればリーダー（講師）としてアドバイスをしたり、少し偉そうなことを言わねばならないのに、今回はそんなことは忘れて、皆さんとともに遊ぶことができたから。

## 講習会スタッフ

L 西谷 芳晴(帯広山岳会) 新井 孝(苫小牧山岳会) 坂井 洋文(札幌山の会)

上野 英孝(テレマークスキー特別講師)

S L 新井 素子(苫小牧山岳会) 加藤 陽子(ロビニア山岳会) 難波 正幸(ロビニア山岳会)

神山 健(えぞ山道会) 玉木 とし子(ロビニア山岳会) 秋元 篤男(札幌山の会)

## 山岳スキー技術研修会 1/24-25 日高国際スキー場・日勝峠周辺

平成 27 年 1 月 24 日～25 日の二日間において、国立ひだか青少年自然の家に宿泊し、受講者 19 名、スタッフ 7 名で研修会を実施した。

一日目は、日高国際スキー場にてプルークボーゲンから始まりシュテムターンや深雪を想定した上下動を意識したパラレルターン等、天気が良かったせいか納得のいくすべりでありました。

実技トレーニングの後は、15 時 30 分頃から机上講習を行い、雪山における雪崩対策、山岳スキーの基本、アイゼン・ピッケルワーク、新 S A B (スタンディングアックスビレー) 等、盛りだくさんの内容でした。

翌朝は、前日の疲れも見せず起床し、準備をして駐車場の車の窓ガラスを見ると、気温がマイナス 20℃と寒かったためか、雪の結晶がはっきり見られ感動する。

早速準備をして日勝峠駐車場に車を止め、快晴の中、尾根伝いに頂上を目指す。

天気が良いせいか、皆さんの足取りが軽い。頂上付近でアイゼン・ピッケルワーク・S A B 訓練を体験する。アイゼン・ピッケルワークを兼ね日勝ピーク登頂。

天気も良く周りの山々がハッキリ見渡せました。下山は皆さん自慢の山岳スキーでシュプールを刻み、全員無事下山、お疲れ様でした。

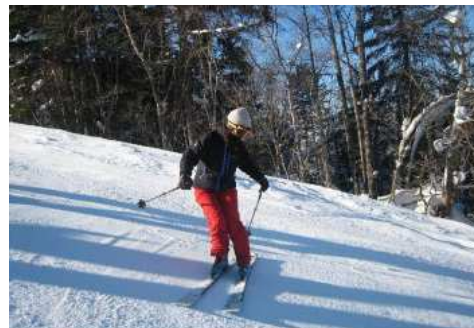
(記録 登別山岳会 相馬 範昭)

《 スタッフ 》

藤木 晴夫 石川 孝一 荒堀 英雄 相馬 範昭  
下山シゲ子 酒井まり子 藤木たか子



氷雪の日勝ピーク



危険回避の横滑りテクニックをさらに磨く

## 山岳スキー(氷雪)技術研修会に参加して

恵庭山岳会 石丸 裕之

### 〇はじめに

私は、一昨年9月恵庭山岳会に入会し、まだ経験も浅く、山岳スキーは初心者です。昨年5月会員の方に誘われ、初めてスキーにシールを付けて春スキーを楽しみました。そして道岳連制作のCD「北海道の山スキー」を何回見たでしょうか、それ以来パウダースノーを自由に滑ることが憧れとなり、今回思い切って研修会にエントリーしました。

とは言っても、本格的な冬山での山岳スキーは初めてであり、もちろんアイゼン・ピッケルの経験もなく、期待半分・不安半分のスタートでした。

研修二日目、快晴の日勝ピークに立ち、真っ白な東大雪や十勝連峰を正面に、初めてのパウダースノー満喫することが出来たことは、一生の思い出になることと思います。そしてこの研修会に参加できて良かったと思っています。

### 〇研修一日目

9時30分、日高国際スキー場をリフトで一気に頂上まで登り、山岳技術を前提としたグレンデでの実習でした。ボーゲンからショートターンまで理論と技術を何段階にも分け、わかりやすく教えてくれました。なぜ体を深くしたり起こしたりしなければならないかが理解できました。これが翌日の山岳スキー実習に大いに役立つ内容だったことが、次の日納得しました。

3時30分からは、宿泊の「国立ひだか青少年自然の家」で6時まで熱心な講義がありました。「ピッケル・アイゼンワーク」「雪崩対策」「SAB(スタンディング・アックス・ビレイ)」です。私にとってはどれも高度で専門的な内容でしたが、非常に興味を持って聞くことが出来ました。

夕食後は交流会です。ビールを片手の談笑は楽しいものでした。特にCD「北海道の山スキー」の鑑賞で説明していただいた荒堀さんは、このCDの制作者兼出演者でもあって、苦労話あり裏話ありで、すっかりファンになりました。

### 〇研修二日目

9時30分、日勝トンネル前の駐車場に到着、ここからシール登高で日勝ピークを目指しました。途中からザックにスキーを付け、アイゼン・ピッケルワークの実践でした。講師の石川さんからお借りしたアイゼン・ピッケルでの登高は、かなり緊張しましたが、初めてアルピニストの気分を味わいましたし、ピークに立った時の素晴らしさには、声がでないくらい感動しました。

山頂下でインディアンツェルトを設営し、昼食を摂った後、SABの実践でした。高度な技術の実習でしたが、参加した皆さんは皆熱心で士気の高さに感心しました。

### 〇初めてのパウダースノー

最後はお目当てのスキー滑降です。スタートは結構な急斜面でしたので、私は荒堀さんの誘導で、転ばないようにボーゲンで恐る恐るでしたが、荒堀さんの素晴らしいショートターンを見て私も思い切ってチャレンジしました。

なんと。この感覚・快感は言葉では言い表せません。まるでスローモーションの中にいるようで、ふぁっと浮いてはまた



ピークを目指してスキー登高

沈みの連続でターンをしているのです。大大感激、大大満足でした。

#### 〇おわりに

東大雪、十勝連峰の真っ白な頂。十勝大平原のずうっと向こうに阿寒の山々… 「素晴らしかった！」。そして憧れのパウダースノー… 「楽しかった！」

ピッケルとアイゼン… 新しいチャレンジの道を教えてくれました。

素晴らしい研修となりました。ありがとうございました。

## 冬山講習会 Part 2 2/7-8 日勝峠周辺

普及事業で行う講習会の狙いは、一般の冬山愛好家及び冬山希望者に、冬山の魅力を感じてもらい、冬山にリスクがあることを受け止めてもらうことである。

講習の二日間は、山スキー、テレマークスキー、スノーシューの3ジャンルに分かれた実技と、共通の座学講習の組み合わせ。講習会 Part 1 は基礎編、Part 2 は応用編として、できるだけ二回続けての参加を求めたので、およそ9割の方は両方出席、顔なじみとなっていて和気あいあいのムードだ。Part 2 は22名の受講生のうち山スキー17名、テレマークスキー3名、スノーシュー2名、ほかにスタッフ11名の33名の参加となった。

2月7日(土)は低気圧が近づいていたが、早さは遅く、日勝付近はまあまあの天気、時折青空がのぞく。山スキーA・B班及びテレマークスキー班は日勝ピークへ向かう。初心者で構成された山スキーC班は、日高国際スキー場で基礎トレーニング。スノーシュー班は熊見山方面を目指した。いずれも山頂、山頂付近からの展望が効き、冬山ならではの景色が堪能でき、参加者は喜んでた。

国立日高青少年自然の家では、16時から座学講習。坂井Lのテーマは冬山リスク全般。まず、受講生がどれだけの冬山知識があるかをテスト。その回答を説明しながら講義が進む。次に、テレマークスキー特別講師の上野氏は「間違いだらけの用具選び」。身の丈に沿った用具選びが重要との指摘だ。そして新井Lによる明日の実技テーマ「ひとり雪洞」の解説。西谷Lの日勝エリアの地形、雪質の特徴と明日のコース説明。一息ついて、懇親会では参加者全員が3分スピーチ。これからの冬山、雪山目標等が交歓された。



1445峰に行くC班



ひとり雪洞を掘る

8日(日)は、スタート時に曇りだったが、昼前には雪が降ってきた。山スキーA班、テレマークスキー班は、熊見山稜線から旧日勝スキー場方面の尾根を下る。B班は一本左側の尾根からスキー場終点付近へ向かう。途中、弱層テストやひとり雪洞を作る。



日勝ピークを裏側から目指したC班も、課題を消化しながら読図に精を出す。しかし、タイムアップで1250mまでで終了。スノーシュー班は日勝ピークに達し、昨日に続き再びひとり雪洞を作る。15分以内ですすまず出来栄のよいビバークサイトが完成した。

閉講式は予定を少し早め、13時50分日勝峠駐車場で行き、集合写真も撮った。その5分後、参加者は健闘をたたえあい、晴れ晴れした顔で別れを告げ各地に散った。（普及委員長 秋元 篤男）

《 スタッフ 》

山スキーA班 L西谷 芳晴 S L加藤 陽子 山スキーB班 L坂井 洋文 S L新井 素子  
山スキーC班 L秋元 篤男 S L玉木とし子 テーマクスキー班 L上野 英孝 S L難波 正幸  
スノーシュー班 L新井 孝 現地本部 小野 倫夫 藤野 雄



## 冬期講習会に参加して

2014年本州より転勤で北海道に住むことになり、今まで夏山しかやってなかった私も雪国の山にも関心がわき、この度、冬山の基礎知識を習得するために講習会に参加しました。

スキーから離れていたこともありましたが、じっくり冬山を観察できるのはやはりスノーシューではないかといった考えで、今回はスノーシューを選択しました。

Part 1・2と参加しましたが、Part 1で冬山を体感し、その教訓をもとに手袋、防寒、行動食などを修正することができ、Part 2に参加し実践・確認もできました。そういった意味でもPart 1・2と続けて参加する意味合いもあったかと思います。

初めての白銀の世界の冬山は大変美しく、一方で早いペースで変わる天気、厳しい風、北海道の冬山の良さと厳しさを体感できました。また、雑誌等の写真では見てましたが、実物の雪庇とそのルートへの対応、雪崩の基礎知識とハンドテスト、雪洞掘り、その大きさとスピード、現地での実践が雑誌では得られない貴重な体験でした。

講師の新井講師は、冬山に対応すべき基礎知識を、例えば雪洞掘りでの装備をなくさない、斜面で滑らない工夫、その他スノーシューでの斜面の歩行法、ルート等適切に細かく解説して頂きました。また、持つべき装備では自身の装備を紹介しながら、丁寧に解説して頂きました。

最後に、このような機会をつくって頂いた北海道山岳連盟の皆様へ感謝するとともに、これからの発展をお祈りいたします。（谷 岡）

## 冬期講習会 Part2に参加して

好天の初日、山スキーA班(西谷L 加藤SL)は、まず、全員が日勝峠 1445 峰の進行方向をコンパスの操作実習で確認しました。体が重いと感じながらもゆっくりと追従し、何とか 1445 峰へシール登坂、そして待望のペケレベツ岳向かう斜面を滑走実習です。深雪には届かない少し重めの雪でしたが、スキーがレベルアップしたのではと勘違いさせてくれる絶好の雪質を楽しみました。

その後、研修所に戻り座学講習です。雪崩、冬山気象、冬山の道迷い、フォーストビパーク時の雪洞掘りなどを受講しました。また、上野特別講師から生涯スポーツを実践するためにも自分の力量に適したスキー選びが大切であると提示されました。スキー道具の重要性は、困難な状況になるほど、安全スキーに直結する事だと気付かされました。

二日目は、ガスって視界がきかない中、熊見山方面へ向かい、昨日の座学講習を思い出しながら、雪底下にて各人が雪洞ほり、弱層テストの実習を行いました。その後、旧日勝スキー場方面へ滑降実習です。滑りやすい雪、固く締まった雪、クラスト、モナカなど雪質がめまぐるしく変化し、楽しいながらもかなり四苦八苦でした。そんな中、テレマーク班の上野特別講師と一緒に滑降する機会にも恵まれました。世界中で競技をしていた方の滑りは、無駄がなく華麗で力強い。圧巻！

素晴らしい雪山、楽しい山スキーの反面、冬山はいつも危険と隣り合わせであること、改めて冬山に入る知識や技術、そして道具選びの大切さを再認識させられました。

安全登山、安全山スキーの啓蒙にご尽力いただいている道岳連の皆様にご感謝いたします。

(加 我)

## 山岳スキー検定会 2/28-3/1 旭スキーリンクス・神居山

### 山岳スキー技術養成・検定会を終えて

山岳スキー技術は、スキー場の整地されたグレンデを滑走するのとは全く違う、人間の手が一切加えられていない大自然のフィールドの中で、自らの力で登り安全に滑走し楽しむための技術であり、それには大自然の脅威に対する備えが不可欠です。

近年バックカントリーと呼ばれているジャンルで、多くのスキーヤーやスノーボーダーが山に入るようになりました。

私たち北海道山岳連盟は、安全登山をめざして山岳スキー技術のスキル向上を図るべく技術検定を毎年実施しています。

2015 年シーズン山岳スキー技術研修の集大成とも言える「山岳スキー技術養成・検定会」を、2月28日(土)～3月1日(日)、道北のカムイスキーリンクス、神居山、ネイパル深川を会場に実施しました。

山岳スキー技術「リーダー、準指導員、指導員」と三つの資格に総勢7人が受験し、シール登行、ラッセル、方向転換、雪崩対策、危急時対策、地図・コンパス、そして各種の滑走技術など、実技と指導法そして筆記試験と、スキー登山のリーダー、指導者をめざして多岐に亘る課題に懸命に取り組んでいました。

今シーズンは、暖冬による少雪と暖気による重い雪に加えて、山ではスノーモビルの跡に悩まされましたが、晴天に恵まれた好条件の2日間でした。

シール登行では、パーティー登山におけるメンバーの力量に応じたコース取りや方向転換、雪崩対策では、危険な斜面の見分け、ハンドテストやシャベルテストなどの弱層テスト、滑走技術では、



検定受験者と検定員

山スキーならではの横滑り、プルーク、斜滑降、シュテムターン、パラレルターン、深雪ターンなどの技術検定を行いました。みなさん樹林帯の柔らかい深雪の斜面を、立木の障害にもめげず巧みに滑り、日頃の練習成果を遺憾なく発揮していました。

結果は、リーダー3名、準指導員3名、指導員1名と少ない受験者でしたが全員が合格となりました。

受験された皆さん、合格を糧に所属する会の中で、山岳スキー技術の普及、雪山安全登山の指導者として、その力を存分に発揮してくださることを期待します。

(山岳スキー技術検定主任 荒堀 英雄)

## 合格者

指導員 出江 俊夫(札幌山の会)

準指導員 加藤 岩雄(恵庭山岳会) 小川 智靖(登別山岳会) 東海林 春樹(札幌山の会)

リーダー 石丸 裕之(恵庭山岳会) 播磨谷 俊達(白湯山倶楽部) 梅田 康明(増毛山岳会)

## スタッフ

主任検定員 荒堀 英雄(新得山岳会) 検定員 藤木 晴夫(登別山岳会) 西嶋 克己(札幌山の会)

検定補助 坂井 洋文(札幌山の会) 藤木 たか子(登別山岳会)

## 山スキー技術講習検定会に参加して

増毛山岳会 梅田 康明

### はじめに

私は、一昨年増毛山岳会にある方との出会いがあり入会しました。

それまでの私はいつも一人で山に登っていて、いつも心の中では春になったら暑寒別岳にスキーで登って、格好良く滑ってみたいと思っていました。けれど一人では無理… (増毛山岳会は春スキーに暑寒に行くと言うことで… スキーは大好きです)

グレンデばかりではなく、パウダーを滑ってみたいと思っている時に、たまたまカムイスキーリンクス山頂ロッジで見かけた方にお声をかけたときに、リンクスの裏に行ったことあるかい?と…

そういえば、前の週に見かけた人達、大きなザックを背負って行ったことを告げると、たまに裏側の方で講習会とかをやっているよとのこと。その方も裏側を滑るときはセルフレスキュー装備(ビーコン、ゾンデ棒、ショベル)を持って滑るんだよと教えていただきました。

それから一年が経ち、増毛山岳会から道岳連のお話を聴き勉強させていただこうと思い、氷壁技術講習会に参加させていただいた時の相部屋の登別山岳会相馬・小川指導員とお話している時に、スキーは大好きですと言った途端、帰り際に連絡先を相馬指導員より手渡され、来週「山スキー(氷雪)技術研修会」があるから藤木講師に連絡し参加しなさいとのこと。道具もそれほど持ってない自分にあわてて札幌まで買いに走りました。

### 1日目

10:00 カムイスキーリンクスのグレンデを使い、山岳技術の基礎部分を荒堀主任検定員が

お手本となって指導していただきました。ブルークボーゲン、シュテムターン、ロングターン、ショートターン、斜滑降、横滑りからの停止と。

子供の頃スピードに怖い自分のことを思い出しました。ブルークボーゲンで止まることも、曲がることも覚え、少しスピードを出すことをなれてきたときにシュテムターンによる初期の減速をして曲がること。

スキー滑走中のコンディションは時として同じではない。整備されていない山の中を滑走中に安全で確実に滑れることがとても大事だと言うこと。荒堀主任検定員の減速という言葉が耳に残りました。

15:00頃講習終了。道立ネイパル深川に移動しました。夕食・入浴が終了して、18:30から筆記試験です。その後懇親会がありとても楽しかったです。

## 2日目

朝一でゴンドラに乗り、カムイスキーリンクス頂上の裏側(神居山東面)です。ビーコンチェック、準備体操後検定を行うところを探しながら(斜面を見極めながら)ついていきます。まだ、だれも滑っていない斜面を荒堀主任検定員・藤木検定員・西嶋検定員が格好良く滑って行きます。そうです、実技試験の始まりです。私は緊張のせいなのか、滑る楽しみなのか(スキーが大好きだ!)体はコチコチになっておりましたが、昨日の減速と安全に滑走と言う言葉を思い出しながら滑りました。



昼食を山中でとって、残りの指導員と準指導員の試験を拝見させていただいて、自分も先輩達みたいに格好よく滑りたいと思いました。

15:00頃、センターロッジ2F休憩室に集まって、ロッジ前で合格発表です。「全員合格」という言葉に有難うございました。とてもうれしかったです。

## あと書き

思えば叶うと言う言葉があり、人との出会いも人生にとってかけがいのないことです。好きだからこそ、みな集う。子供みたいに笑いそして昔話に花が咲く。そこに愛があるのだと私は思う。

増毛山岳会の方々や札幌のとある山の会に入れていただいて、一緒に行動するとよく口癖で若いのに一緒に登って楽しい?なんて言われるけれど、自分からすると皆人生の先輩だと思う。自分だって年をとれば同じこと。記録も大事だけど記憶も思うことがある。みんなが事故なく楽しく帰路につけることがなよりの励みになると思う。

今回も、色々な方々にご指導いただき、勉強させていただきまして大変ありがとうございました。そして、次なるレベルアップを頑張りたいです。

## 「がんばっぺ東北」ツアー 3/20-23 みやぎ蔵王山

この度、東北山スキーツアーでは『絆』の“強さと温かさ”をあらためて強く感じ取りました。最初の東北ツアーでは、4年前の“3.11東日本大震災”の直後に八甲田山で行い、十和田山岳会のサポートで高田大岳を全員登頂で絆を深めました。そして、今回は登別山岳会と姉妹都市のご縁で交流登山を重ねている“宮城県白石市の白峰会”のサポートで蔵王山を全員初登頂しました。



バスを運転して頂いた十和田山岳会の田原さん「二日間にわたり安全運転ありがとうございました。」そして、白峰会の皆さん…烏帽子岳、刈田岳などコースガイドなどの気配りと温かなおもてなしに感銘しました。ありがとうございました。

いつか北海道の山に来られる時には再開を喜び、一緒に登山を楽しみたいと思っています。

指導委員会(山岳スキー運営委員会)  
藤木 晴夫

## ツアーA班記録と閑上地区慰霊訪問記

旭川山岳会 近藤 照衣

### 行動記録

2月21日(土)、早朝4時45分に八戸港に着き、マイクロバスで名取市の津波災害地慰霊、みやぎ蔵王えぼしスキー場に着いたのはお昼。それからスキー場を滑る班と後烏帽子へ登山する班に別れ、日が暮れるまでたっぷりスキーを楽しんだ。

夜は白峰会の方々との交流宴会、もり上がっていた男性陣の二次会のことを考えると、朝無事に全員出発できるのかと心配もしたが、遅れる人なく8時7分には予定通りホテルを出発。今日も昨日と同じく快晴、風も強くなさそう。気温は10℃ぐらい、ザラメの斜面を楽しめそうな日とメンバーは出発前から大喜び。

出発はすみかわスノーパークスキー場。3本のリフトを乗り継ぎ、リフト終点から刈田(かった)岳頂上を目指した。リフト終点が高度1380m。リフトを降りてシールを貼る。風が結構冷たく感ずる。稜線上は風があるかもしれないと思う。天気が良いので、日焼け止めをみんなたっぷり塗る。白峰会のメンバーがガイド。登りは刈田岳を見ながら広い尾根に行く。登り高度差400m弱、約2時間ぐらいで頂上の予定。途中、蔵王のエコラインのガードレールが雪の中から顔を出していた。頂上直下、右側に五色岳の御釜が見えてきた。夏の御釜はコバルトブルーのような青さだそうだが、まだ湖面は雪に覆われていた。それでも、とけ始めているのかうっすら水色に見え美しかった。

稜線に近づくにつれ、屏風岳、烏帽子岳、南蔵王稜線の山々や熊野岳などの山々が見えてくる。この稜線は厳冬期風に吹かれたらかなり厳しいらしい。雪が少ないので、樹氷はあまり期待していなかったが、南蔵王稜線にかわいい樹氷群を見つけた。1758mの頂上に予定通り11時30分に着く。頂上には避難小屋と神社の鳥居、雪に埋まり荘厳な刈田嶺神社があった。北海道の山々で、こんなに大きな神社を頂上で見たことがない私は、その立派さに驚いた。山麓の遠刈田温泉にある「刈田嶺神社」と対になっているらしく、神様



後烏帽子岳(1681m)山頂



刈田嶺神社

は冬に里におりて夏は山にいるらしい。

頂上でのお昼は、白峰会の若者たちが中心になって避難小屋でお湯を沸かしてくれていたの  
で、暖かいカップラーメンやうどんをごちそうになった。この避難小屋は戸が三重になっていた。  
中では石油ストーブで暖がとれるようになっていた。

我がA班の最高年齢東海林康相さんは、3月21日で御年84歳。A班の御姉様たちは、頂上  
に着いたらハッピーバースディの大合唱をしようと話し合っていた。快晴の刈田岳の頂上で全  
員で大合唱。東海林さんのように80歳すぎても元気で山を楽しめたらいいなとみんな思った。



刈田岳山頂からの大滑走

12時15分、いよいよ楽しみの下り。先頭は白峰  
会のベテラン。ものすごいスピードで滑りおりてい  
く。次々遅れないよう追っかけるように滑り出した。  
ザラメの斜面はスピードがでる。あの斜面がいいな  
と思う間もなく、もう一度山を見てなんて思う間も  
なく一気に滑る。リフト終点には12時45分着。

あっというまの30分だったが、「いつもなら休まないから15分よ」と言われびっくり。スキ  
ー上手な白峰会の面々だった。それでも、天気の良いなかを滑れて、大満足の日だった。

貴重な連休を昼食の準備や山の案内をしてくださった白峰会のメンバーに大感謝。今年夏の  
全日大会は栗駒山です。また再会できることを約束してスキー場を後にした。

### 閑上地区慰霊訪問記

被災地の閑上(ゆりあげ)地区を訪問し、慰霊碑の側にあった碑文を見て、言葉を失いました。  
最大9.09m大津波が襲ったこの地域は、家の基礎しか残っていない住宅街や3階建のビルも  
みな津波がおそい3階部分も空き家のように。近くの閑上中学校は屋上に避難した人であふ  
れたそうです。その屋上から見た光景を白峰会の方がお話し下さいました。助けることもでき  
ない状況、波の中に人が浮かんで消えていく様子。お話しして下さる方の心中を思うと胸  
が詰まります。

私の友人の息子さんは3.11の後、東北の大槌町の方と縁があり結婚しました。あきちゃん  
というそのお嫁さんは、ときどきうなされます。震災後の一年くらいは気丈な感じでがんばっ  
ていましたが、震災三年目になりよくうなされるそうです。津波で大切な友人をたくさん亡くし  
ているからです。「助けて」と手を出す友達の手  
がにぎれなく、うなされるようです。夫になった  
友人の息子さんは「もう大丈夫かなと思ったら…  
きつとこれからも大変なんだと思う」と話してい  
ました。津波のときの恐怖がフラッシュバックし  
ているのでしょう。



閑上地区の震災慰霊碑で献花

震災で家族を失った人たち、親をなくした子ど  
もたちはどうしているのか、どういう思いで生き  
ていくのかと思います。震災で子どもを流されて  
しまった親も多いと思います。

せめて、東北の復興に政府がもっとしっかりお金も知恵もだしてくれればと怒りに似たよ  
な気持ちになることが多いこの頃です。福島のことも含め、しっかり発信する側にいようと思  
います。家の基礎がまる裸になった場所に、いぬふぐりの青い小さな花がびっしりとさいて  
いました。1000人近い方達の命のようでした。

## 第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 H26/12/23-24 埼玉県加須市民体育館

第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会は、平成26年12月23-24日の両日、埼玉県加須市民体育館で全国から男子104名、女子84名が参加して開催された。

北海道からは10月28日の予選大会で選抜された男子5名、女子4名が出場、成績は次のとおり。

男子 松浦 凌(遠軽高校) 9位 武者 知希(江別高校) 17位 岸本 武蔵(美唄尚栄高校) 27位  
白戸 隆雅(札幌真栄高校) 40位 平岡 直樹(遠軽高校) 47位  
女子 佐々木里穂(北海学園札幌高校) 21位 梅田 萌夏(北見北斗高校) 59位  
落合 優衣(遠軽高校) 63位 永野 亜弥(遠軽高校) 72位  
団体 遠軽高校 男子団体 4位 女子団体 16位

## クライミング・日本ユース選手権2015 3/28-29 千葉県印西市松山下総合体育館

クライミング・日本ユース選手権2015“ミレーカップ”は、3月28日～29日、千葉県印西市松山下公園総合体育館で開催され、男子130名、女子81名がそれぞれ4つのカテゴリーに分かれて競技した。以下、北海道選手の成績(日山協HPリザルトより転載)。

ジュニア男子	松浦 凌 10位☆	ジュニア女子	佐々木里穂 7位☆
	高木 智和 17位	ユースA女子	永野 亜弥 21位
	岸本 武蔵 19位	ユースB女子	佐藤いぶき 16位
	白戸 隆雅 28位	アンダーユースB女子	上原子 瞳 24位
ユースA男子	武者 智希 7位☆		☆印は決勝進出者

## 今後の諸行事(予定)

### 道岳連総会・第1回理事会

期日 平成27年5月10日(日) 会場 札幌エルプラザ

### 登攀研修会

期日 平成27年5月30(土)-31日(日) 会場 上滝ロック、日高登山研修所

### 夏山講習会Part1

期日 平成27年5月30(土)-31日(日) 会場 於古登山&赤岩、小樽自然の村ロッジ

### 第2回 Jr SC 奈良杯兼 JOC Jr リンピックカップ 大会道予選会

期日 平成27年6月7日(日) 会場 美唄市体育センター

### 沢・登攀研修会

期日 平成27年6月27日(土)-28日(日) 会場 ルベシベ山、日高登山研修所

2016年8月11日 祝日 「山の日」 みんなでふるさとの山を登ろう！！

# 第 29 回北海道山岳連盟交流登山会士別大会実施要領

## 【士別市合併 10 周年記念事業】

1. 主 催 北海道山岳連盟
2. 主 管 朝日山岳会
3. 後援・協力 士別市他
4. 期 日 平成 27 年 6 月 13 日（土）～14 日（日）
5. 集合場所 岩尾内湖白樺キャンプ場
6. 集合時間 6 月 13 日（土） 午後 1 時より受付開始
7. 宿 泊 岩尾内湖白樺キャンプ場（各自テントをご持参ください）
8. 登山コース 天塩岳  
A：連絡道～新道コース B：前天塩コース C：旧道（沢）コース
9. 参加料 一人 3,000 円（記念品・諸経費含む）
10. 申込方法 参加申込書に必要事項を記入の上、下記まで送付願います。

### 【問合先及び申込先】

- ①〒095-8686 士別市東 6 条 4 丁目 士別市役所内 朝日山岳会会長 井出 俊博  
☎0165-23-3121 fax 0165-22-2478 Email ide.toshihiro@city.shibetsu.lj.jp
- ②〒095-0492 士別市朝日町中央 4040 番地 士別市朝日総合支所内  
朝日山岳会事務局長 佐久間 貴之  
☎0165-28-2121 fax 0165-28-4010  
Email sakuma.takayuki@city.shibetsu.lj.jp

### 【参加料振込先】

金融機関名 北ひびき農業協同組合朝日支所  
口座名 朝日山岳会(アサヒカケカイ)  
口座番号 普通 0004389

11. 申込締切 **平成 27 年 5 月 15 日(金)**

### 12. その他

- ①申込み後の参加料は返金いたしません。  
記念品は団体代表者にお渡しします。
- ②期間中、各会場での事故・トラブルについての責任は負いかねますので、各会員並に参加団体で対処願います。
- ③14 日の登山については、宿泊先から天塩岳まで各自移動して頂くこととなりますが、天塩岳登山口の駐車スペースに限りがございますので、できる限り乗り合わせでの移動にご協力願います。
- ④交流会での夕食については、「ジングスカン」をご用意しております。また「特設売店」、キャンプ場管理棟の売店もご利用できます。
- ⑤後片付け、清掃、ごみ等は各自お持ち帰りの徹底をお願いいたします。
- ⑥緊急連絡先 士別市朝日総合支所 ☎0165-28-2121



### 道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No. 7 4 平成 27 年 4 月 23 日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西 3 条 10 丁目 2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄



